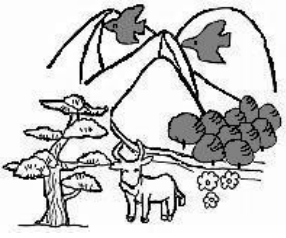


評価対象年度	平成23年度	施策評価シート		政策	12	施策	29
施策名		29 豊かな自然環境, 生活環境の保全		施策担当部局	環境生活部(, 経済商工観光部), 農林水産部		
「宮城の将来ビジョン」における体系		12 豊かな自然環境, 生活環境の保全		評価担当部局(作成担当課室)	環境生活部(自然保護課)		

施策の目的 (目標とする宮城の姿)	<p>○県内の優れた自然環境が保全され, 多様な野生生物が適切に保護されるとともに, 過去に損なわれた自然環境や生態系の再生が進んでいる。また, 国立・国定公園やラムサール条約湿地, 松島湾や蒲生干潟などをはじめとし, 県内各地で自然保全活動が関係者の協力のもと活発化している。</p> <p>○県民やNPO, 事業者, 国, 県, 市町村, 教育研究機関等の多様な主体が連携し, 自然環境の保全に関する取組や環境学習・体験活動などが実践されている。</p> <p>○水田や里地里山, 沿岸域などの身近な自然が, 農林漁業における生産の場としてだけでなく, 県民が自然とふれあう場としても活用されている。</p> <p>○山間部, 農村部及び都市部といった流域全体が連携し, 清らかで豊かな水が保全されている。また, 湖沼などの閉鎖性水域の水質改善が進んでいる。</p>	
施策の方向 (「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画」の「将来ビジョン・震災復興実施計画」の行動方針)	<p>◇ 特別名勝松島や国定公園に指定されている金華山島や栗駒山, ラムサール条約湿地である伊豆沼など, 宮城を彩る豊かな自然環境の保全・再生を推進する。</p> <p>◇ 地域と共生する野生生物の保護管理の推進に向け, 特定鳥獣の保護管理や希少動植物の保護・保全などに取り組む。</p> <p>◇ 豊かな自然環境を守りながら自然の恵みによるやすらぎや潤いに取り組むことができる取組を推進する。</p> <p>◇ 身近なみどり空間である里地里山の保全や, 自然環境保全意識の醸成に向けた人材育成などに取り組む。</p> <p>◇ 流域ごとにその特性を踏まえた水循環計画を策定し, 健全な水循環の保全に向けた取組を推進する。</p>	

施策に関する社会経済情勢等の状況 (全国・隣県・本県の状況, 法令・条例・計画等策定の状況等について)	
<p>・平成20年6月に施行された「生物多様性基本法」に基づき, 生物多様性の保全と持続可能な利用に関する国の基本計画である「生物多様性国家戦略2010」が平成22年3月16日に閣議決定され, 「すべての都道府県が平成24年度までに生物多様性地域戦略の策定に着手する」ことが国の目標とされた。</p> <p>・生息環境の悪化等により生息数が減少している鳥獣が存在する一方で, 農林業被害を発生させる等人間との軋轢を顕在化させている鳥獣も存在する。また, 都市部を中心に傷病野生鳥獣に対する救護要請が増加している。</p> <p>・自然環境の保全など環境問題が議論される中, 各界有識者から水田などを積極的に活用した環境教育が提唱されているほか, 豊かな自然環境を保全しながら自然の恵みによるやすらぎや潤いに取り組むことができる活動への関心が高まりを見せているものの, 行政主導のものが多く, 地域が主体となって活動を展開するための仕組みづくりや人材育成が急務である。</p> <p>・豊かな自然環境・生活環境の保全のためには, 県土の6割を占める森林の適正な管理が必要である。特に森林の約4割を占める民有人工林(国有以外の森林で, 人為的に造成したもの。)の健全な育成が必要である。</p> <p>・林業採算性の悪化により, 森林所有者の森林経営意欲が低下し, 森林整備は停滞している。民有人工林の約7割が間伐作業の対象となる段階(林齢)にあり, 間伐の実行確保が森林整備上の喫緊の課題である。</p> <p>・松くい虫対策にあつては, 全国, 東北地方ともに被害量は減少傾向にあるものの, 未だ被害区域は広範にわたっており, 国庫補助事業が重点的に行われている。本県においても, 昭和50年の被害発生以来, 継続して事業が実施され, 現在は第4次松くい虫被害対策事業推進計画(平成24~28年度)に基づき松林の保全に努めている。</p> <p>・湖沼や湾内などの閉鎖性水域における水質の改善が十分に進んでおらず, 人間生活や社会経済活動による水利用, 都市化による流域の地下浸透, 涵養機能の低下等により河川の平常時の流量が減少するなど, 水循環の急激な変化による水質, 水量, 水辺地, 水生生物への影響が指摘されている。</p> <p>・環境省では, 東日本大震災により被災した三陸地域の復興を図るため, 陸中海岸国立公園をはじめとした自然公園を「三陸復興国立公園(仮称)」として再編成する構想を掲げ, 現在, 再編成に向けた取り組みを検討している。</p>	

決算(見込)額 (千円)	年度	平成22年度 (決算額)	平成23年度 (決算(見込)額)	平成24年度 (決算(見込)額)	平成25年度 (決算(見込)額)
	県事業費	623,714	1,043,026	-	-

※決算(見込)額は「宮城の将来ビジョン推進事業」と「取組に関連する宮城県震災復興推進事業」の合計額(再掲分含む)

目標指標等 ※達成度 A: 「目標値を達成している」 B: 「目標値を達成していないが, 設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している, 又は現状維持している」 C: 「目標値を達成しておらず, 設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」 N: 「現況値が把握できず, 判定できない」					
		初期値 (測定年度)	現況値 (測定年度)	目標値 (測定年度)	達成度
1	豊かな自然環境の保護・保全を目的とした指定地域の県土面積に占める割合(%)	25.96% (平成20年度)	26.06% (平成23年度)	26.06% (平成25年度)	A
2	地域や学校教育と連携した農村環境保全等の協働活動に参加した人数(人) [H19からの累計]	10,000人 (平成20年度)	21,398人 (平成23年度)	27,000人 (平成25年度)	B
3	松くい虫被害による枯損木量(m ³)	14,420m ³ (平成20年度)	11,160m ³ (平成22年度)	14,000m ³ (平成25年度)	A
4-1	閉鎖性水域の水質(COD)(伊豆沼)(mg/l)	9.8mg/l (平成20年度)	- mg/l (平成23年度)	9.0mg/l (平成25年度)	N
4-2	閉鎖性水域の水質(COD)(松島湾)(mg/l)	2.7mg/l (平成20年度)	- mg/l (平成23年度)	2.5mg/l (平成25年度)	N

■ 施策評価（原案）

施策の成果	評価の理由
<p>目標指標等、県民意識調査結果、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたか（「目標とする宮城の姿」に近づいているか）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標指標等の状況では、閉鎖性水域の水質（伊豆沼、松島湾（甲、乙、丙））の達成度が「N」であるが、これは震災の影響で事業を中止したこと、平成23年度の環境基準点での測定結果が確定しないため、現況値が把握できなかったためである。他の目標指標については達成度は「A」または「B」である。 ・県民意識調査結果からは、施策の重視度が70.2%と高くなっているが、満足度は44.4%にとどまっている。これは「わからない」という回答が約35.2%あることが影響していると考えられる。 ・社会経済状況では、平成23年3月に生物多様性の保全と持続可能な利用に関する国の基本計画である「生物多様性国家戦略2010」が閣議決定され、「すべての都道府県が平成24年度までに生物多様性地域戦略の策定に着手すること」が国の目標とされたことから、生物多様性の認知度が高まることが期待される。また、地球温暖化防止のため、森林の持つ多面的な機能の向上が期待されており、社会的な関心も高く、健全な森林を育成する事業への評価は高い。 ・施策を構成する各事業については、東日本大震災の影響により実施できないものが多数あったが、実施した事業における分析結果は、「成果があった」または「ある程度成果があった」のどちらかである。 ・以上、指標及び施策を構成する事業の実施状況等から、本施策の進捗状況は概ね順調と判断する。
<p>【評価】</p>	
<p>概ね順調</p>	

施策を推進する上での課題と対応方針（原案）

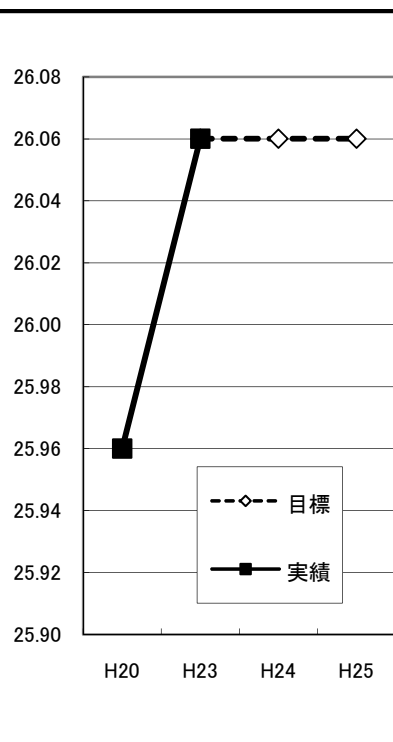
※施策が直面する課題や改善が必要な事項等
※今年度の対応状況を含む今後の対応方針

<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全再生の推進においては、複雑多様な連鎖、因果関係で成立している自然を対象とすることから、科学的知見とそれに基づくシナリオ（何を行えば、何がどう変わるか）の検討を充分行い、事業に着手した後もモニタリングを継続して実施し、その結果を科学的に評価し、それを事業内容にフィードバックさせる順応的な方法により進める必要がある。また、そのような取り組みを行ったとしても、自然環境の回復には相当の期間を必要とすることが想定される。 ・野生生物の保護管理の推進においては、イノシシ及びビロシジカ（注）の個体数調整を実施しているが、捕獲の担い手である狩猟者が減少傾向にあり、狩猟者の確保と一斉捕獲技術等の開発、普及が課題になっている。また、被害防除対策及び生息環境の整備も推進する必要がある。一方、ツキノワグマは、生息環境の悪化により生息数が減少する恐れがあり、特定鳥獣保護管理計画に基づき、個体数の安定的な維持を図りつつ、農業被害や人身被害を軽減していく必要がある。 ・自然環境の保全及び活用に関する活動の推進においては、農業・農村を活用した環境教育面で、活動主体と行政機関との間で活動趣旨に対する認識が一致していない場合があり、また、地域リーダーが不在のため、行政主導から脱却できない地域がある。 ・みどり空間の保全については、森林育成事業において平成22年度以降の間伐の実行量を確保するため、従前より計画的な事業推進が必要であり、また松くい虫被害対策においては、一気に被害の終息を図ることは困難となっており、被害防止対策と被害木の処理を継続して実施する必要がある。一方、みどり空間の創出については、県民や企業と協働した森づくりを県内に広めるためには、活動の場となる適地を掘り起こして、計画的に事業展開していく必要がある。また、みやぎの里山林協働再生支援事業については、活動フィールドとなる里山林を確保していくため、市町村や森林組合等からの情報と所有者へのアプローチが重要であり、関係機関の理解と協力がが必要になる。 ・健全な水循環の推進については、伊豆沼の水質保全において、導水路整備や水利権の取得が課題である。 ・県沿岸部は東日本大震災による津波により被災、地形等自然環境が大きく変質している。今後、植生等モニタリングすることにより、被災後の自然環境の変化を把握する必要がある。また、国、県による復旧工事、市町村の復興計画に基づく事業が実施されることによる自然環境の変化も予測され、復興関連施策と環境保全施策との調整が求められる。 ・東日本大震災を受け、今後の自然共生社会のあり方について、幅広い観点から有識者の意見を伺うことが必要と思われる。
<p>【対応方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の影響により、平成23年度に実施できなかった事業については、平成24年度は実施する。 ・自然環境の保全再生の推進においては、伊豆沼・内沼自然再生事業では、実施計画に基づき引き続き事業を実施する。蒲生干潟自然再生推進事業は、東日本大震災による津波により被災し地形等自然環境が大きく変質したため、事業の継続が困難と判断した。当面、植生等モニタリングを実施するなど、被災後の自然環境の変化を把握する。 ・野生生物の保護管理の推進においては、イノシシ及びビロシジカについて引き続き捕獲による個体数調整、被害防除対策及び生息環境の整備を推進し、新規事業として捕獲及び防除研修会を行う。また、ツキノワグマについては、「宮城県ツキノワグマ保護管理計画」を策定し、保護管理事業を行う。 ・自然環境の保全及び活用に関する活動の推進においては、地域が主体となって活動を展開している事例を研究しながら地域の合意形成を図るほか、将来的に地域リーダーになり得る人材を発掘し、育成するための研修を行い、効果的な事業推進を図る。 ・みどり空間の保全については、森林育成事業において森林の施業履歴等に基づき、間伐が必要となっている森林所有者に対し、関係機関と連携し普及啓発を強化するほか、松くい虫被害対策では第4次松くい虫被害対策事業推進計画（平成24～28年度）に則した事業を継続実施する。また、みどり空間の創出については、県民や企業等と協働した森づくりについて、各市町村との連携により、活動フィールドの確保と継続的な事業実施を図り、みやぎの里山林協働再生支援事業については、関係機関との連携強化を図り、企業等への広報宣伝を拡充する。 ・健全な水循環の推進については、伊豆沼の水質保全において試験導水等を実施し、水質と湖沼生態系の回復状況などの検証を行う。また、松島湾の水質保全については、水質モニタリングや藻場の分布調査を実施する。 ・今後、国、県による復旧工事、市町村の復興計画に基づく事業が実施されるため、各事業におけるモニタリング結果等を参考に復興関連施策と環境保全施策との調整を図り、自然環境への影響を最小限に留める。

目標指標等の状況

※目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している。又は現状維持している」
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

目標指標等名 (下段・説明)	評価対象年度	初期値	H23	H24	H25	H26
1 豊かな自然環境の保護・保全を目的とした指定地域の県土面積に占める割合(%)	指標測定年度	H20	H23	H24	H25	-
	目標値(a)	-	26.06	26.06	26.06	-
	実績値(b)	25.96	26.06	-	-	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	100%	-	-	-
	達成度	-	A	-	-	-

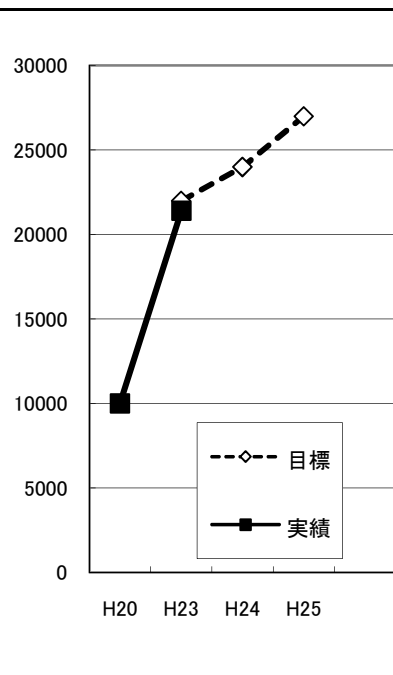


目標値の設定根拠
 ・自然環境の保全状況の評価には、質と量の両面の評価があるが、質の判断・測定は、自然の持つ多様性、総合性からも非常に困難であることから、量及び面積により判断することとし、自然保護に関する指定地域(自然公園、自然環境保全地域、緑地環境保全地域)の県土に占める面積割合を指標として設定した。

実績値の分析
 ・全国的に見ても高い水準で目標を達成している。

全国平均値や近隣他県等との比較
 ・都道府県の面積に対する自然公園の面積割合では、本県は全国で第9位、自然環境保全地域では第2位となっており、全国的に見て高い水準にある。

目標指標等名 (下段・説明)	評価対象年度	初期値	H23	H24	H25	H26
2 地域や学校教育と連携した農村環境保全等の協働活動に参加した人数(人) [H19からの累計]	指標測定年度	H20	H23	H24	H25	-
	目標値(a)	-	22,000	24,000	27,000	-
	実績値(b)	10,000	21,398	-	-	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	97%	-	-	-
	達成度	-	B	-	-	-



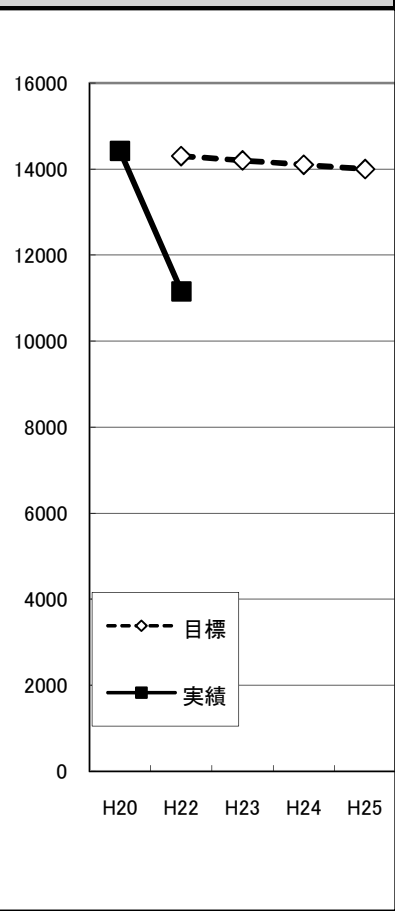
目標値の設定根拠
 ・平成18～20年度の実績によるトレンドから、目標年度である平成25年度まで、5,000人/年を推計していた。
 ・しかしながら、協働活動を積極的に実施してきた沿岸部の震災被害が大きいため、各地域の復興状況を勘案し、H23=2,000人、H24=2,000人、H25=3,000人と目標を修正し、平成25年度目標(累計)27,000人としている。

実績値の分析
 ・震災の影響により平成23年度の参加人数は約2,600人と過去最低であった。
 ・今後の回復について注視する。

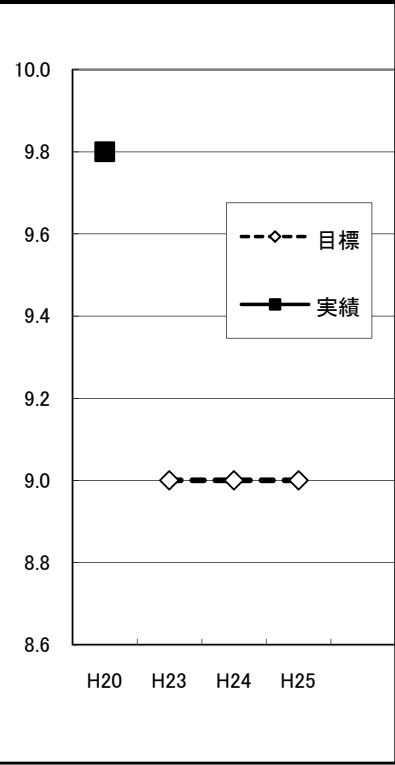
全国平均値や近隣他県等との比較
 -

目標指標等の状況

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H23	H24	H25	H26
3 松くい虫被害による枯損木量(m ³) 枯損木:枯れ木のこと。枯れた原因が明らかな場合、受動的な意味を込めて「枯損木」と使う場合が多い。 〔例〕雪害による枯損木 など	指標測定年度	H20	H22	H23	H24	H25
	目標値(a)	-	14,300	14,200	14,100	14,000
	実績値(b)	14,420	11,160	-	-	-
	達成(進捗)率(a)/(b)	-	128%	-	-	-
	達成度	-	A	-	-	-



目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H23	H24	H25	H26
4-1 閉鎖性水域の水質(COD)(伊豆沼)(mg/l) 環境基準であるCOD(化学的酸素要求量)を目標指標としている。	指標測定年度	H20	H23	H24	H25	-
	目標値(a)	-	9.0	9.0	9.0	-
	実績値(b)	9.8	-	-	-	-
	達成(進捗)率(a)/(b)	-	-	-	-	-
	達成度	-	N	-	-	-



目標指標等の状況

目標指標等名 (下段: 説明)	評価対象年度	初期値	H23	H24	H25	H26
4-2 閉鎖性水域の水質 (COD) (松島湾) (mg/l) 松島湾を3区域 (甲・乙・丙) の環境基準であるCOD (化学的酸素要求量) を目標指標としている。	指標測定年度	H20	H23	H24	H25	-
	目標値(a)	-	2.6	2.6	2.6	-
	実績値(b)	2.7	-	-	-	-
	達成(進捗)率(a)/(b)	-	-	-	-	-
	達成度	-	N	-	-	-
目標値の設定根拠	<p>・閉鎖性水域を有する海域における環境基準の達成率は54%と、河川の98%と比べ低い傾向にある。松島湾の環境基準は、松島湾(丙)がA類型 (COD:2mg/l以下)、松島湾(乙)がB類型 (COD:3mg/l以下)、松島湾(甲)がC類型 (COD:8mg/l以下) として指定 (昭和46年5月環境庁) されており、水域によって環境基準が異なることから、環境基準点及び補助測定点の過去10年間の平均値を目標値に設定している。</p>					
実績値の分析	<p>・東日本大震災の影響で事業を中止。 ・過去10年間のCODは、松島湾(丙)が2.2mg/l～3.2mg/l、松島湾(乙)が1.7mg/l～2.6mg/l、松島湾(甲)が2.9mg/l～3.7mg/lで推移している。湾奥の松島湾(甲)で、目標値のCOD2.6mg/lを超えている。この原因は、松島湾が閉鎖性水域の形状を呈しており、外洋と内湾において海水の行き来が不十分なため、汚濁物質が蓄積しやすいことが上げられる。</p>					
全国平均値や近隣他県等との比較	<p>・全国の広域的な閉鎖性水域における水質状況COD (過去10年間の平均値の平均値) は、東京湾で2.7mg/l、伊勢湾で3.1mg/lである。松島湾は2.4mg/lである。</p>					

県民意識調査結果

調査実施年度 (調査名称)			平成20年度 (平成21年県民意識調査)		平成22年度 (平成23年県民意識調査)		平成24年度 (平成25年県民意識調査)	
この施策に対する重視度	重要	重視の割合	31.5%	73.3%	29.0%	70.2%		
	やや重要		41.8%		41.2%			
	あまり重要ではない		9.0%		9.4%			
	重要ではない		2.7%		3.1%			
	わからない		15.0%		17.2%			
調査回答者数			1,800		1,915			
この施策に対する満足度	満足	満足の割合	7.0%	41.5%	7.8%	44.4%		
	やや満足		34.5%		36.6%			
	やや不満		18.8%		15.5%			
	不満		5.1%		4.9%			
	わからない		34.6%		35.2%			
調査回答者数			1,765		1,888			
調査結果について			<p>・重視度については、「重視」の割合が7割で推移していることから、この施策に対する県民の期待が窺える。 ・満足度については、「満足」の割合が2か年で約3ポイント増加しているが、「満足」の割合が4割半ばに留まっていることから、割合を高めるような事業展開に努めたい。 また、「わからない」の割合が3割半ばで推移していることから、事業の周知をこれまで以上に進める必要がある。</p>					

宮城の将来ビジョン推進事業

番号	事業名		事業の状況						
	担当部局・課室名	平成23年度決算(見込)額(千円)	特記事項						
1	伊豆沼・内沼自然再生推進事業	19,670	事業概要		平成23年度の実施状況・成果				
			ラムサール条約湿地である伊豆沼・内沼の環境保全に向けた各種取組を実施する。		・自然再生協議会開催(1回開催)、沈水植物増殖・移植試験、水生植物適正管理に努めた。 ・クロモ等沈水植物の生育面積は、現況値を把握できていない。				
	環境生活部 自然保護課	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
妥当	ある程度成果があった	概ね効率的	維持	18,240	19,670	-	-		
2	野生鳥獣保護管理事業	10,923	事業概要		平成23年度の実施状況・成果				
			特定鳥獣(ニホンザル、ニホンジカ等)をはじめとする野生鳥獣の保護管理を推進するとともに、希少野生動植物の保護・保全に向けた取組などを推進する。		・鳥獣保護事業計画及び各特定鳥獣保護管理計画の1年延長を行った。 ・検討・評価委員会 1回開催 部会を各1回、計4回開催				
	環境生活部 自然保護課	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
妥当	ある程度成果があった	効率的	維持	11,010	10,923	-	-		
3-1	傷病野生鳥獣救護推進事業 非予算的手法:傷病野生鳥獣フォスター・ペアレント事業	1,144	事業概要		平成23年度の実施状況・成果				
			傷病野生鳥獣の適切な救護に向け、関係機関・団体等との連携のもと各種活動を実施する。また、傷病野生鳥獣を一時保護しているボランティア等の負担軽減と県民理解の促進に向けた「フォスター・ペアレント制度」を運用する。		・県内10カ所の救護機関及び県内43名の救護ボランティアに傷病野生鳥獣の救護・一時飼養を依頼。実績として、救護機関へは236件(H22年度:296件)、救護ボランティアへは69件(H22年度:67件)となっている。				
	環境生活部 自然保護課	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
妥当	ある程度成果があった	効率的	維持	1,876	1,144	-	-		
3-2	傷病野生鳥獣救護推進事業 非予算的手法:傷病野生鳥獣フォスター・ペアレント事業	0	事業概要		平成23年度の実施状況・成果				
			傷病野生鳥獣の適切な救護に向け、関係機関・団体等との連携のもと各種活動を実施する。また、傷病野生鳥獣を一時保護しているボランティア等の負担軽減と県民理解の促進に向けた「フォスター・ペアレント制度」を運用する。		・みやぎ生活協同組合等、県内数団体・個人から野菜や果実、鳥肉等の無償提供を受けている。 ・本制度のより一層の促進を図るため、ホームページにて事業の周知活動を実施した。				
	環境生活部 自然保護課	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
妥当	ある程度成果があった	-	維持	0	0	-	-		

4	みやぎの田園環境教育支援事業	非予算的手法	事業概要				平成23年度の実施状況・成果			
			県民に農業・農村の持つ魅力などを再認識してもらおうとともに農村環境保全に係る意識の醸成を図るため、地域や学校教育との連携・協働による農村環境保全活動を支援する。				・田んぼの生き物調査開催(11回)。 ・水土里の路ウォーキング開催(2回)。			
			0							
6	農林水産部 農村振興課、 農村整備課		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性				
			妥当	成果があった	-	維持	H22	H23	H24	H25
					0	0	-	-		
5-1	みんなでやれるっちゃ・宮城のみどりづくり事業 みやぎの里山林協働再生支援事業 わたしたちの森づくり事業	非予算的手法	事業概要				平成23年度の実施状況・成果			
			県内企業から苗木の提供を受け、県民の森をはじめとした県内各地にバットの原木となるアオダモなどの広葉樹を植樹する。また、里山林の整備保全のため、企業・団体など多様な主体と森林所有者との間の森林利活用に向けた協定締結を促進する。				・「復興へ頑張ろう！みやぎ みんなでつくろう！バットの森を」をテーマに以下のとおり開催。 ①日時：平成23年11月5日(土)11時～12時 ②場所：大和町松坂平地内(大和町有林) ③参加：地元みどりの少年団・スポーツ少年団等260名 ④内容：アオダモ等広葉樹4種150本植栽 面積0.10ha			
			0							
8-1	環境生活部 自然保護課 農林水産部 森林整備課		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性				
			妥当	成果があった	-	維持	H22	H23	H24	H25
					0	0	-	-		
5-2	みんなでやれるっちゃ・宮城のみどりづくり事業 みやぎの里山林協働再生支援事業 わたしたちの森づくり事業	非予算的手法	事業概要				平成23年度の実施状況・成果			
			県内企業から苗木の提供を受け、県民の森をはじめとした県内各地にバットの原木となるアオダモなどの広葉樹を植樹する。また、里山林の整備保全のため、企業・団体など多様な主体と森林所有者との間の森林利活用に向けた協定締結を促進する。				・2件9haの協定締結(期間延長含む)を行い、そのうち1件で命名権の売却も行った。			
			0							
8-2	環境生活部 自然保護課 農林水産部 森林整備課		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性				
			妥当	成果があった	-	拡充	H22	H23	H24	H25
					0	0	-	-		
5-3	みんなでやれるっちゃ・宮城のみどりづくり事業 みやぎの里山林協働再生支援事業 わたしたちの森づくり事業	非予算的手法	事業概要				平成23年度の実施状況・成果			
			県内企業から苗木の提供を受け、県民の森をはじめとした県内各地にバットの原木となるアオダモなどの広葉樹を植樹する。また、里山林の整備保全のため、企業・団体など多様な主体と森林所有者との間の森林利活用に向けた協定締結を促進する。				・4件17haの協定締結(更新含む)を行い、そのうち3件で命名権の売却も行った。			
			0							
8-3	環境生活部 自然保護課 農林水産部 森林整備課		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性				
			妥当	成果があった	-	拡充	H22	H23	H24	H25
					0	0	-	-		
6	松くい虫被害対策事業	24,303	事業概要				平成23年度の実施状況・成果			
			松島や三陸海岸、仙台湾海浜等における松くい虫被害防除に向けた被害木の処理、薬剤散布等を実施する。また、松くい虫被害に抵抗性のあるマツの苗木を生産するための採種園を整備するとともに、地域住民の参加による松林再生に向けた取組を推進する。				・震災の影響で、空中散布は実施体制が整わず中止となったが、地上散布、伐倒駆除は、海岸部は津波被害を免れた箇所と、内陸部の重要松林で実施した。 ・薬剤による松林の保全(ha) ※963ha(H22)→107ha(H23) (目標値1,003ha H23)			
			0							
9	農林水産部 森林整備課		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性				
			妥当	ある程度成果があった	効率的	拡充	H22	H23	H24	H25
					108,668	24,303	-	-		

7	閉鎖性水域の水質保全事業	2,480	事業概要				平成23年度の実施状況・成果			
			伊豆沼や松島湾などに代表される閉鎖性水域の水質保全に向けた取組を実施する。				・導水の効果は数年してから徐々に現れると考えられることから、継続して水質や生物の調査を行っている。平成23年度は、流入負荷量の調査として農地系負荷の調査を実施した。			
10-1	環境生活部 環境対策課		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
			妥当	成果があった	効率的	維持	2,178	2,480	-	-
8	豊かなみやぎの水循環創造事業	147	事業概要				平成23年度の実施状況・成果			
			県内を5流域に区分し、各流域において健全な水循環のための計画を策定する。また、各機関、団体等が連携し、啓発普及を含めた取組を進める。				・水道水源特定保全地域の指定・告示(2流域)。 ・河川及び沿岸海岸部の被災概況把握(5流域)。 ・平成22年度取組実施状況の把握・HP公表(1流域)。			
11	環境生活部 環境対策課		事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
			概ね妥当	ある程度成果があった	効率的	維持	405	147	-	-
9	森林育成事業	469,951	事業概要				平成23年度の実施状況・成果			
			県産材の安定供給と森林整備の推進による木材産業の維持・復興及び地球温暖化防止や水源のかん養、県土の保全など森林の多面的機能の発揮を図るため、搬出間伐を主体とした森林整備に対して支援する。				・震災の影響から、平成23年度事業は実施が遅れたものの、中断していた平成22年度事業が、サプライチェーンの回復に伴い完了したこと等から、活動指標が目標値を上回った。 ・私有林間伐面積[年間] ※4,089ha(H22)→6,500ha(目標値5,600ha)			
			18	農林水産部 森林整備課	取組6 <u>再掲</u> 震災復興4②①	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)
①必要性	②有効性	③効率性				次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
			妥当	成果があった	効率的	維持	459,315	469,951	-	-
10	温暖化防止間伐推進事業	363,783	事業概要				平成23年度の実施状況・成果			
			震災により木材の主要な需要先が被災したことにより、林業事業者における事業確保や雇用の維持が難しくなっていることから、森林整備事業による雇用確保と産業の維持・復興を図るため、若齢林を中心とした間伐を実施する。				・二酸化炭素吸収率の高い若齢林を中心とした間伐の実施により、温暖化防止と雇用確保等に取り組んだ。なお、震災の影響から、事業が遅れ、事業箇所は確保できたが、実施は相当数を平成24年度に繰り越すこととなった。 ・当該事業による間伐実施面積 ※0ha(H22)→1,424ha(H23)(目標値1,424ha)			
19	農林水産部 森林整備課	取組27 <u>再掲</u> 震災復興1③②	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
			①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
			妥当	ある程度成果があった	効率的	維持	-	363,783	-	-
11	新しい植林対策事業	11,400	事業概要				平成23年度の実施状況・成果			
			震災により被害を受けた地域の県民生活保全や2次災害の未然防止を図るため、被災森林や上流域の造林未済地等に花粉の少ないスギ等の植栽を進め、森林の公益的機能の向上を図る。あわせて、花粉の少ないスギの増産のための施設を設置する。				・花粉の少ないスギの苗木を増産するため、林業技術総合センター内に挿し木苗生産用のミストハウス(1棟)を整備した。 ・ミストハウスの整備 ※1棟(H23)(目標値1棟)			
			20	農林水産部 森林整備課	取組27 <u>再掲</u> 震災復興4②③	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)
①必要性	②有効性	③効率性				次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
			妥当	成果があった	効率的	拡充	-	11,400	-	-

		事業概要				平成23年度の実施状況・成果					
12	環境林型県有林造成事業	82,875	震災により甚大な被害を受けた地域などの県民生活の保全と、木材の計画的な供給を確保するため、県行造林地の計画的な伐採による木材生産を進めるとともに、上流部にある森林の持つ多面的機能の発揮により、下流域における災害発生の未然防止を図るため、契約更新に伴う再植林と保育を実施する。				<ul style="list-style-type: none"> ・土地所有者との合意形成を図り、100年間の森林整備に係る地上権設定契約を締結した。 ・地上権設定契約面積156ha(目標値65ha) ・契約に基づき、伐採跡地の森林機能を早期に回復し、良好な森林環境を維持するための森林整備を実施した。 ・森林整備面積42ha(目標値65ha) 				
	22	農林水産部	取組27 再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
		森林整備課	震災復興1③②	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
			妥当	成果があった	効率的	維持	-	82,875	-	-	
決算(見込)額計		986,676									
決算(見込)額計(再掲分除き)		58,667									

取組に関連する宮城県震災復興推進事業

番号	事業名		事業の状況																
	担当部局・課室名	平成23年度決算(見込)額(千円)	特記事項																
1	環境教育施設等復旧整備事業		23,850	事業概要		平成23年度の実施状況・成果													
	環境生活部			震災復興1③②		震災で被害を受けた環境教育施設等について、復旧整備を図る。		・災害復旧環境教育施設等 6施設 うち 復旧整備完了施設等 4施設 年度内整備完了が困難となった施設等 2施設											
	自然保護課				事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)										
					①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25							
				概ね妥当				成果があった				概ね効率的				維持			
				-				23,850				66,981				-			
2	保健環境センター再建事業		30,000	事業概要		平成23年度の実施状況・成果													
	環境生活部			震災復興1③②		震災による大気、水、土壌などの生活環境の悪化や東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故に伴う食の安全・安心などへの不安等への的確に対処するため、震災で大きな被害を受けた保健環境センターを再建し、大気、水、土壌、食品などの試験検査体制の整備・充実強化を図る。		・保健環境センター本庁舎等を解体し現地に建て替えるため、建物内部に残存している機器等の移転を完了させた。なお、食品分析機器の整備については、平成24年度実施予定。											
	環境対策課、食と暮らしの安全推進課				事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)										
					①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25							
				妥当				成果があった				効率的				維持			
				-				30,000				-				-			
3	山林種苗生産再建支援事業		2,500	事業概要		平成23年度の実施状況・成果													
	農林水産部			震災復興4②④		震災により甚大な被害を受けた山林種苗生産者の再建を図るため、種苗生産に必要な生産機械、機具等の整備に要する経費を支援する。		・林業種苗生産に必要な生産機械、機具等の整備を支援した。 ・林業種苗生産用機械等の整備。 ※13台(H23)(目標値13台)											
	森林整備課				事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)										
					①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25							
				妥当				成果があった				効率的				維持			
				-				2,500				-				-			
決算(見込)額計			56,350																
決算(見込)額計(再掲分除き)			56,350																